

2020 年度後期 遠隔授業アンケート 集計結果概要

実施期間：2021 年 1 月 20 日（水）～2021 年 2 月 6 日（土）

実施対象：全学部生（2,179 人）

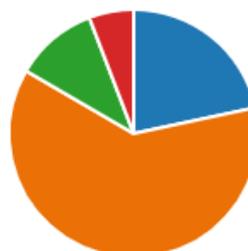
回答数：989 件（回答率：45.4%）

回答内訳：理学療法学科 125（1 回生 38、2 回生 45、3 回生 29、4 回生 13）
看護医療学科 180（1 回生 74、2 回生 57、3 回生 29、4 回生 20）
健康栄養学科 183（1 回生 69、2 回生 41、3 回生 55、4 回生 18）
人間環境デザイン学科 80（1 回生 42、2 回生 20、3 回生 11、4 回生 7）
現代教育学科 421 件（1 回生 133、2 回生 131、3 回生 102、4 回生 55）

1. （前期にもお聞きしましたが、改めて）あなたが学修しやすいと感じた遠隔授業の形式は以下のうち、どれですか？（単一選択）

[詳細](#)

| | |
|------------------------|-----|
| ● OpenCEASによる資料提示 | 213 |
| ● オンデマンド教材（音声・動画）... | 607 |
| ● リアルタイム参加型授業（Teams... | 106 |
| ● 後期に遠隔授業はなかった（... | 57 |



[回答内訳] OpenCEAS による資料提示…213

オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）…607

リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOM など）…106

後期に遠隔授業はなかった…57

[コメント] 前期に実施したアンケートでも同様の設問がありました。その時の回答結果は、OpenCEAS による課題提示…351、オンデマンド教材視聴…497、リアルタイム参加型…345 でした。

【参考】前期「遠隔授業アンケート」より

7. あなたが好きな（学修効果が高いと思う）遠隔授業の種類を選んでください（複数回答可）。

[詳細](#)

| | |
|-------------------------|-----|
| ● OpenCEASによる課題提示（し... | 351 |
| ● オンデマンド映像教材の視聴（リ... | 497 |
| ● Teams、Zoomなどを用いた双方... | 345 |
| ● その他 | 32 |



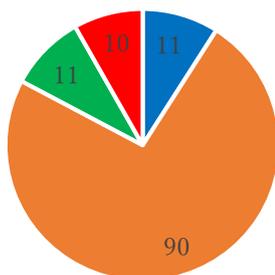
もともと人気の高かった「オンデマンド教材視聴」への支持がさらに高くなっているようです。この方法の良い点としては「自分の都合の良い時間に学修できる」「わからないところを何度も繰り返し学修することができる」などが挙げられていましたが、学生の皆さんが遠隔授業の受講に慣れ、自分自身の学修ペースをつかめてきたことによって、そうした利点をうまく活かせるようになったことが大きいのかもしれません。

なお、学科別、年次別の集計結果は、以下のとおりです。

【学科別】

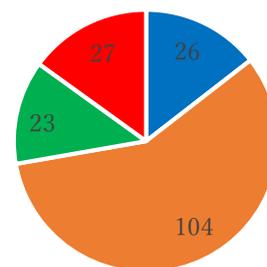
〈理学療法学科〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



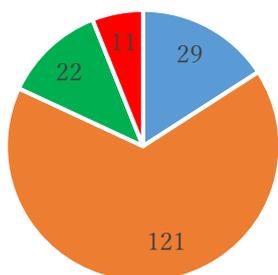
〈看護医療学科〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



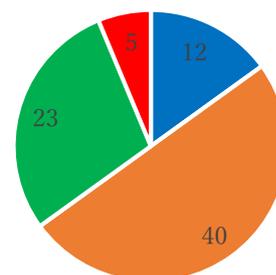
〈健康栄養学科〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



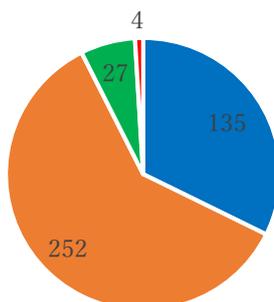
〈人間環境デザイン学科〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



〈現代教育学科〉

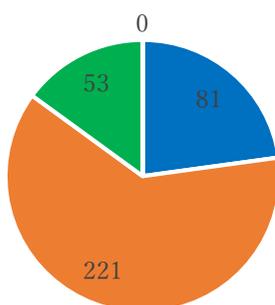
- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



【年次別】

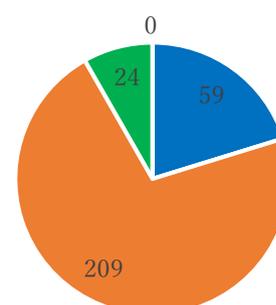
〈1 回生〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



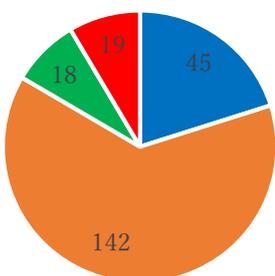
〈2 回生〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



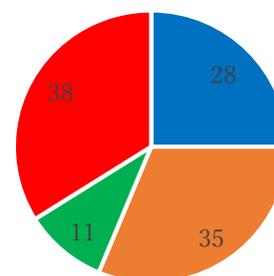
〈3 回生〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



〈4 回生〉

- OpenCEASによる資料提示
- オンデマンド教材（音声・動画）の視聴（リアルタイム参加を必要としない）
- リアルタイム参加型授業（Teams、ZOOMなど）
- 後期に遠隔授業はなかった



2.（特定の科目についてではなく、あなたが受講した全体的な印象として）遠隔授業において以下の点で前期に比べて良い変化（前期よりもよくなった）があった項目を選んでください（複数選択）。

詳細

- 課題の分量（前期アンケートでは... 295
- 課題の出し方（前期アンケートで... 266
- 課題のわかりやすさ（前期アンケ... 333
- 教員からのフィードバック（前期ア... 239
- 質問のしやすさ（前期アンケートで... 151



【回答内容】 課題の分量…295

課題の出し方…266

課題のわかりやすさ…333

教員からのフィードバック…239

質問のしやすさ…151

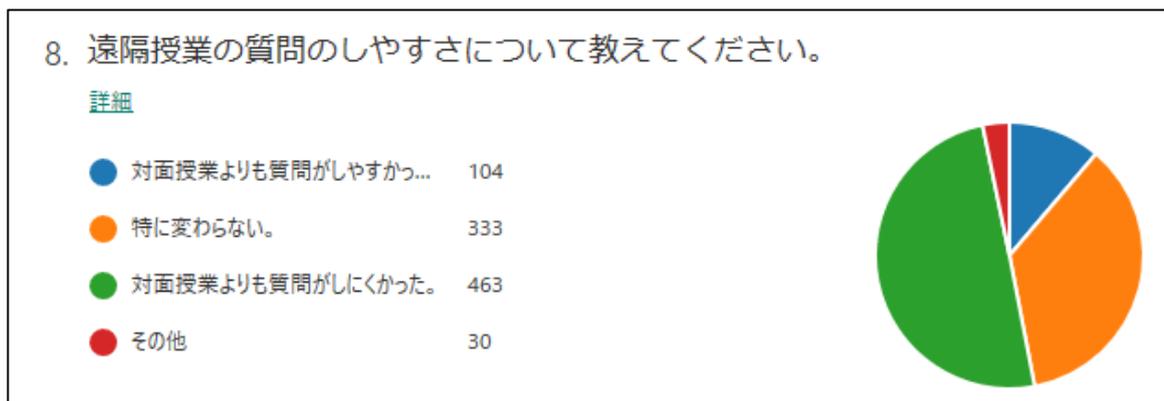
【コメント】 この設問の回答肢には、前期のアンケートで遠隔授業の「問題点、課題点」として特に挙げられることの多かった点を並べました。（よくなったこと）。総じて改善されている傾向は明らかになりましたが、学科・年次別の分析結果を見てみると、特に、

「課題のわかりやすさ」…理学療法 1 回生:47.4%、看護医療 1 回生:43.2%
 健康栄養 1 回生:40.6%、現代教育 3 回生:41.2%
 現代教育 4 回生:45.5%

「課題の分量」…健康栄養 3 回生:49.1%、人間環境デザイン 2 回生:45.0%
 等が高い評価を集めたようです。

一方で、前期のアンケートで半数近くの方が「対面授業よりも難しかった」と回答していた「質問のしやすさ」については回答票数が少なく、未だ課題を残しているといえます。

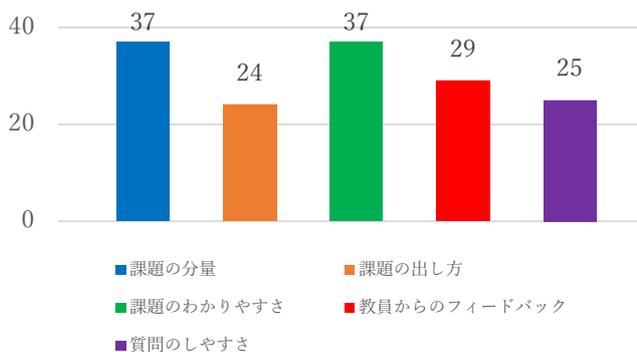
【参考】前期「遠隔授業アンケート」より



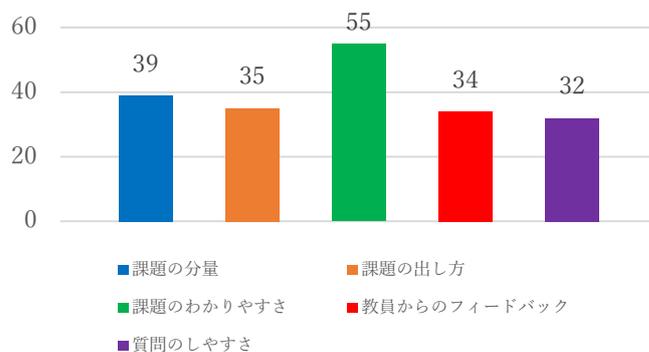
なお、学科別、年次別の集計結果は、以下のとおりです。

【学科別】

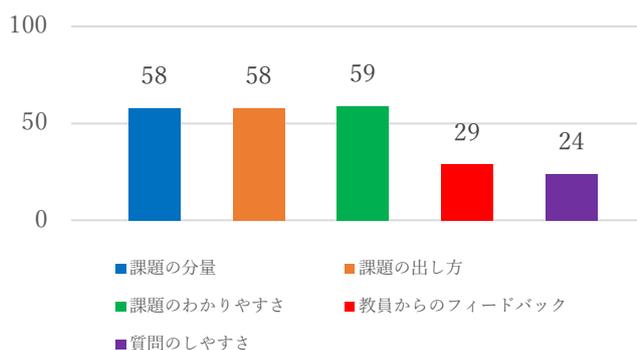
〈理学療法学科〉



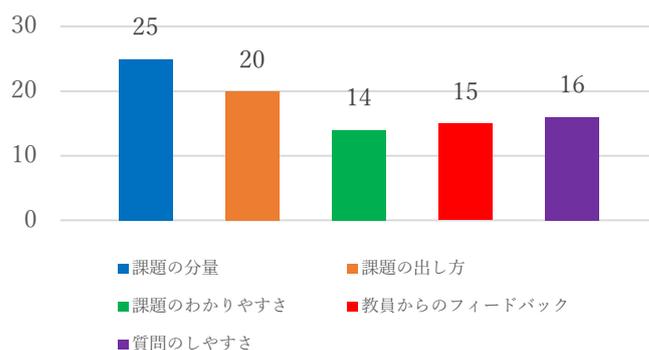
〈看護医療学科〉



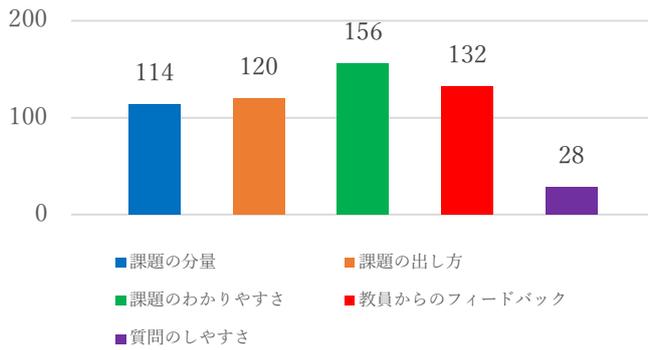
〈健康栄養学科〉



〈人間環境デザイン学科〉

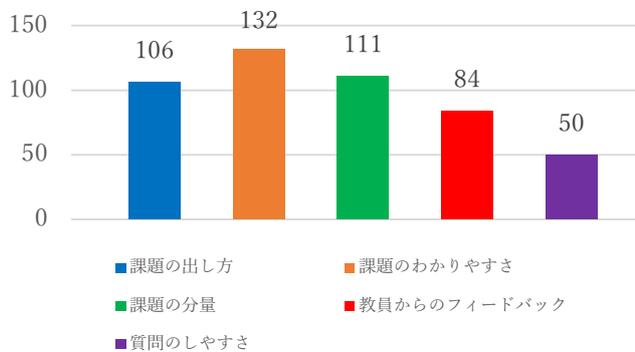


〈現代教育学科〉

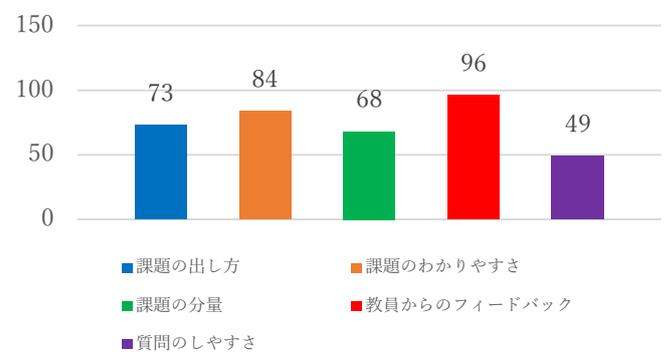


【年次別】

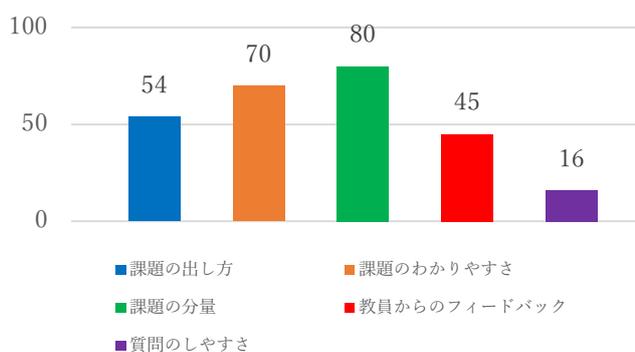
〈1回生〉



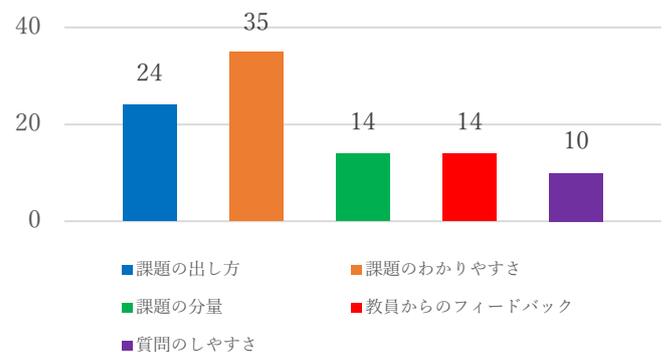
〈2回生〉



〈3回生〉



〈4回生〉



3. 改めて、遠隔授業全般を通して「よい」と思われる点をお書きください。

【コメント】 この設問に対しては 772 件の回答がありました。特に多かった意見をまとめてみます（複数回答あり）。

◆自分のペース、タイミングで授業を受けられること（331件）

特にオンデマンド型の遠隔授業においては、最大の利点といえるかもしれません。自身の体調や都合、授業の内容、得意な分野と苦手な分野など、さまざまなことを考えながら日々の学修をこなしていくことで「計画的に学修を進められ

るようになった」「自主的に勉強しなければ、と思うようになった」などといった意見も見られました。

◆資料を繰り返し見られること（253件）

これも遠隔授業の大きな特徴のひとつだと思います。特に自分にとって難しいと思える箇所、苦手な科目などは繰り返し資料や動画を見返したり、また動画や音声の場合には、ところどころで止めたり巻き戻したりと、それぞれに見方を工夫して、知識の定着を図っている様子が見られました。

◆通学などに使っていた時間を有効活用できたこと（134件）

特に遠方から通学されている皆さんにとって、この点は大きかったのではないのでしょうか。結果として「学修時間が増えた」「気持ちに余裕ができた」といった意見も多く寄せられていました。

◆コロナに感染すること、させることの恐怖を感じずに済んだこと（88件）

今学期においては、やはりこの点も見逃せない要素でした。特に電車通学の皆さんは満員電車に乗らずに済むことが精神的に大きな負担軽減となっていたようです。

◆効果的な授業が実施されていたこと（57件）

前期のアンケート結果等を踏まえて、後期の遠隔授業にさまざまな点において改善が見られたことは設問 2.の回答結果からも明らかですが、そのことが遠隔授業そのものへの評価向上につながっているようでした。

4. 逆に、遠隔授業全般を通して「課題である」と思われる点をお書きください。

[コメント] この設問に対しては 783 件の回答がありました。主な回答を以下に示します（順不同）。特に多かったのは「課題の分量」「提出期限などのわかりにくさ」「1人で学修を進めることによる不安」等に対する意見でした。

- ・質問がしにくい。また、質問のメールを送っても返信してくれない先生もいる。
- ・課題や資料の分量が多く、重要な点やなにを学ぶべきなのかがよくわからないところがあった。
- ・課題を提示するタイミングや提出期限をもっとわかりやすくしてほしい。
- ・音声や動画ではなく、文字だけの資料提示ではなかなか頭に入っていない。
- ・みんなの進み具合がわからず、自分の学修の進め方がこれでよいのか不安になる。
- ・グループワークが難しいため、人とのつながりが生まれにくい。
- ・課題をこなしているだけでは、きちんと身につけているのかがわかりにくい。
- ・インターネット回線の接続不良などに影響されてしまう。
- ・提出した課題のフィードバックがない科目がある。
- ・ずっと遠隔授業だったのに試験だけ対面で実施されるのは少しきつい。
- ・模擬授業をするときは、実際に目の前に人がいないとやりにくく感じた。
- ・生活習慣が乱れやすくなる。
- ・1日のうちに遠隔授業と対面授業が重なってしまうと、移動（通学）などのスケジュールの調整が大変。
- ・自主的に学修を進めることは、自由な反面、サボろうと思えばサボれるという側面も。しっかりとした意識が必要。
- ・畿央大学の長所である学生と教員の距離が近いということが活かしきれない。

5. 今後の遠隔授業の導入方法には、さまざまな可能性が考えられます。以下のうち、もっとも有効である、あるいは受けてみたいと思える授業方法はどれですか？（単一回答）

詳細

- すべて遠隔のみで構成される授業 130
- すべて対面のみで構成される授業 168
- 授業回によって対面回と遠隔回... 443
- 対面で実施されている様子を、遠... 240



【回答内容】 すべて対面のみで構成される授業…130

すべて遠隔のみで構成される授業…168

授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業…443

対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）…240

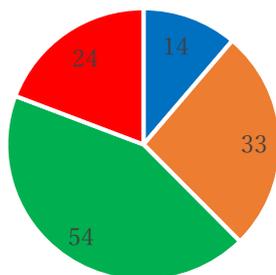
【コメント】 回答結果からは、対面授業と遠隔授業それぞれの利点が認められていること、その利点をうまく掛け合わせた形で授業を進めていくことが、より多くの方から望まれていることがうかがえます。それぞれの授業方法の特性をうまく活かしながら、よりよい授業運営を進めていくことの重要性が改めて感じられる回答結果といえるでしょう。

なお、学科別、年次別の集計結果は、以下のとおりです。

【学科別】

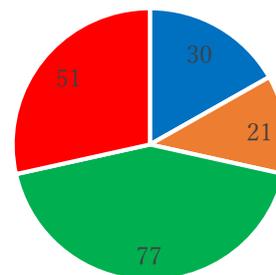
〈理学療法学科〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



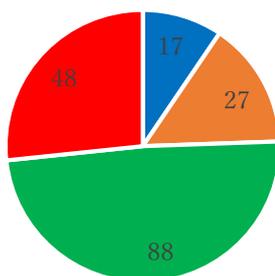
〈看護医療学科〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



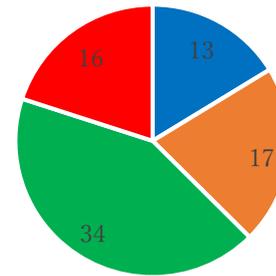
〈健康栄養学科〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



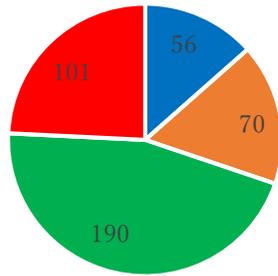
〈人間環境デザイン学科〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



〈現代教育学科〉

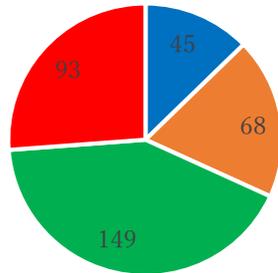
- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



【年次別】

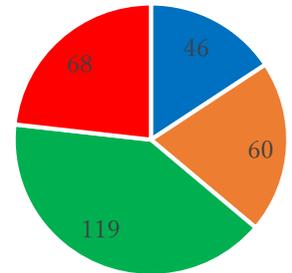
〈1 回生〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



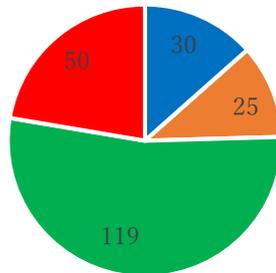
〈2 回生〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



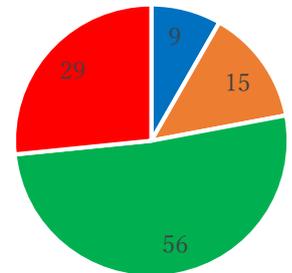
〈3 回生〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



〈4 回生〉

- すべて遠隔のみで構成される授業
- すべて対面のみで構成される授業
- 授業回によって対面回と遠隔回が混在する授業
- 対面で実施されている様子を、遠隔で中継視聴できる（受講の仕方を選べる）授業



6. 2020年度後期に受講した遠隔授業の中で「よかった」と思う科目の科目名を教えてください。

【コメント】 この設問に対しては 734 件の回答がありました。

7. 6.で回答した科目の「よかった点」を具体的に教えてください。

【コメント】 この設問に対しては 706 件の回答がありました。

設問 6・7 の回答については別紙「2020 年度後期 遠隔授業アンケート_分析資料（開示用）」にまとめてあります。

それぞれの観点から、本当に貴重なご意見を数多く寄せていただきましたので、ぜひ一読ください。

◆総評◆

振り返って考えてみますと、2020年度は遠隔授業の良さと問題(課題)が、授業を実施する教員の側からも、受講する学生の側からも、浮き彫りにされた1年だったと言えるのではないのでしょうか。また、それは裏返せば、双方にとって従来何の気なしに当然かくあるものとして受けてきた(あるいは新入生ならイメージとして持っていた)大学での「対面授業」という形式が、唯一絶対的なものではないことをだれの目にも明らかにしてくれた1年だった、とも言えるかもしれません。また、2020年度入学生は、良くも悪くも経験したことのない遠隔授業の受講で初年度を終えたことも記憶に残ることになるでしょう。

本アンケート集計結果は、前期授業と異なり、対面授業と遠隔授業を併用するハイブリッド型の授業形態の下に行われたなかでの遠隔授業に焦点を当てて分析したものです。そのなかで、前期で課題とされていた点がどの程度改善されたかという問題意識から出発しています。設問への回答それぞれには適切なコメントが付けられていますので、そちらを参照していただきたいと思います。ここでは気の付いた点だけを挙げておきます。

遠隔授業で「良かった」点を挙げてくれた自由記述の回答者の中に「(先生の)顔が見られた」「音声での解説があった」というのが目につきました。私はそれらの着眼を新鮮に感じました。先生の顔や声を知ること、対面授業では当たり前のことなのですが、その当たり前が非対面であっても、少しでもいいから、顔の見える関係でいてほしいという願いが、そこに反映されているようです。

先生の顔や表情、息遣い、リズム、声の抑揚などは、対面授業のようにリアルに伝わってくるわけではありませんが、それでも、顔と声を出してくれるだけでも、その先生が、学生の自分に向かって授業を行ってくれているのだという手ごたえをつかむことはできるでしょう。そして、そのことを何よりも学生たちが望んでいるのだということは教員の側も心得ておくのは必要だと思います。

とはいえ、教員の側からすれば、オンデマンドではない、TeamsやZoomを使ったリアルタイムの少人数の参加型授業でもしない限り、学生一人ひとりの顔を見ながら授業を組み立てることはできないのですから、非対面の授業は、教える側にとって対面の授業に比べて何倍も難しいことは確かです。学生の授業の楽しみ方のひとつは、教員が脱線してわき道にそれていく雑談を聴く楽しみであると言う先生がいましたが、そのようなことは顔の見えない受講生を前にして、きわめてむづかしいことです。リアルタイムの遠隔授業で学生の顔や声をたとえ知ることができたとしても、それはライブでの感触とは随分異なることは実感できると思います。そのことは学生の皆さんにも同時に気が付いてほしい点です。

遠隔授業も対面授業も基本的には同じ1時限90分という枠組みを使っています。けれども、目一杯90分を使って授業するのは学生には歓迎されないようです。課題の量がかなり負担になっていることもあるでしょうし、90分間授業を緊張して受けることは、対面であっても大変なことです。この点は教員の側が配慮する必要があるでしょう。学生の側からいえば、わからなければ繰り返して視聴することも、途中でストップ(一時停止)を押して自分で考える時間をとることもできるのですから、対面授業と同じ時間をフルに使う必要はないと考えられます。

配信日と課題の提出期限が一定である科目が、「良かった」科目の中に挙げられています。学生にとって、現在の遠隔授業が対面授業と異なっている点は、授業の形態だけでなく、課題のレポートを定期的に提出しなければいけない義務が伴うことでしょう。課題の提出は、学生の顔が見えない関係のなかでは出席の確認の意味もありますし、何よりも学生がどのくらい教員の授業を理解してくれたかを図るバロメーターは、この提出された課題をもとに推し量るしかないのです。学生もそのことを理解はしてくれていても、科目によ

って提出期限のバラツキがあると、学習の計画が立てづらいということはあると思います。提出期限が長く設定されている科目が歓迎されるわけではないことも、教員の側からは考えさせられることでした。

総じて言えることは、学生の側からいえば、やはり対面授業を待ち望んでいる声が強いということです。遠隔授業での「良かった授業」の良い点を挙げる理由の中に、対面授業を時々入れてくれたことを挙げた回答が散見されました。対面授業を取り入れていたある科目について、ある回答者の自由記述に「前期に比べて大学生だなという感じがしたし、大学に行く機会をくれた点にとっても感謝している」という記述がありました。日常的に大学に通うことは、授業を受けることだけでないプラスアルファの喜びがそこにはあるのでしょう。

遠隔授業の良さと課題を挙げる趣旨のアンケートの回答結果の分析は、同時に対面授業の良さと課題が浮かび上がってくるだけでなく、教員と学生の非対称な関係を示している点でとても興味深いものになっています。真摯に答えてくれた回答者の学生の皆さんに感謝します。

(文責 教務委員長 前平 泰志)